

## 【小学校高学年の部・優秀賞】

### 祖母が教えてくれたこと

那覇市立開南小学校  
五年 長濱 沙紀

戦場に身を焼き果てし

甲辰の

その名をとわに

とどめおかまし

これは、私の通う小学校の敷地内に建立された「甲辰校記念碑」に刻まれた文章です。明治三十七年に、泉崎に甲辰尋常小学校が創立されていたそうです。

図書館で見つけた甲辰校同窓会記念誌「鴻雁」によると、甲辰小は明治三十七年白露戦争後誕生し、昭和十九年の十月十日の空しゅうで焼失した「戦火に消えた学舎」なのです。

また、空しゅう前に起こった戦争の悲劇の一つに、学童そ開船・対馬丸に乗り込んだ甲辰小の児童百人余りと、先生三人が犠牲になつていたこともわかりました。

わたしは、祖母が甲辰小に通っていたのかもしれないと思い、祖母の家へたずねていきました。なぜなら、戦争のことをもつと知りたいと思つたからです。

祖母から聞いた話によると、祖母が六年生の頃に疎開船・対馬丸に乗り込む計画があつたそうです。しかし、祖母の祖父に反対されて乗らなかつたということでした。

もしも、祖母が乗っていたら……と想像すると、祖母はどうなっていたのでしょうか。今の私は、存在していたのでしょうか。六年生だった祖母と私の姿が、重なってしまいます。そして、対馬丸に乗った友達や先生を見送った祖母の気持ちを考えてしまいます。きつと無事にもどれると思つていたことでしょうか。

十・十空しゅうの日、祖母は学校から下校すると中だったそうです。空しゅうのサイレンの前にはすでに爆弾は落とされていた事を考えると、祖母はここでも命を落とさずすんで良かったと思います。

昼は、山にかくれて、夜は怖くて泣きながら道を歩いてひたすら逃げたそうです。また、食料はそてつや海水で、そてつは食べ方をまちがうと中毒する場合があります。食べ

物がなく、空腹に耐え抜いたことでしょうか。祖母は、二十年ほど前に、甲辰小出身の人の集まりに行つたそうです。戦争を体験し、生きのこつた方達は、悲しみや苦しみを胸に抱いて、今でもこれからも、頑張つて生きようとしていることがわかりました。

わたしは、祖母が生きていてくれて本当に良かったと思います。祖母が教えてくれた戦争の話を決して忘れず、わたしにできることを考えていきたいと思えます。そして、これからも、祖母に感謝し、祖母が元気でいられるようにしたいです。

わたしの学校の平和集会では、毎年平和についてみんなで考えています。取り組みの一つに、創作劇「復帰したら雪が降るの？」を演じました。

ストーリーは、けちんぼで有名な駄菓子屋のお婆あは、戦争で夫と子どもを亡くしています。近所の子ども達とお婆あ、その周りの大人達から沖繩の祖国復帰運動のことを学ぶという内容です。

わたしが感動した場面は、本土の南はじつこの与論島と沖繩の一番北にある辺戸岬で大きなたき火をして、沖繩北部の港と与論島から船を出し、海の上の二十七度線でお互いにはげまし合ったところです。

沖繩と本土の人が手を取り合い、みんな仲間なんだと、思いやる気持ちが大切だと思えます。

今、私の学級には、東日本大震災を受けた、宮城県から避難してきた転入生がいます。みんなが安心して勉強や生活ができるよう、協力しています。

私達が、平和について考え行動していくことが、かつて甲辰小に通っていた方達へのメッセージだと思ひ、続けていきたいです。